

木材需給動向について (全国)

2021年9月
林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>
（QRコードからもアクセスできます。）



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国）

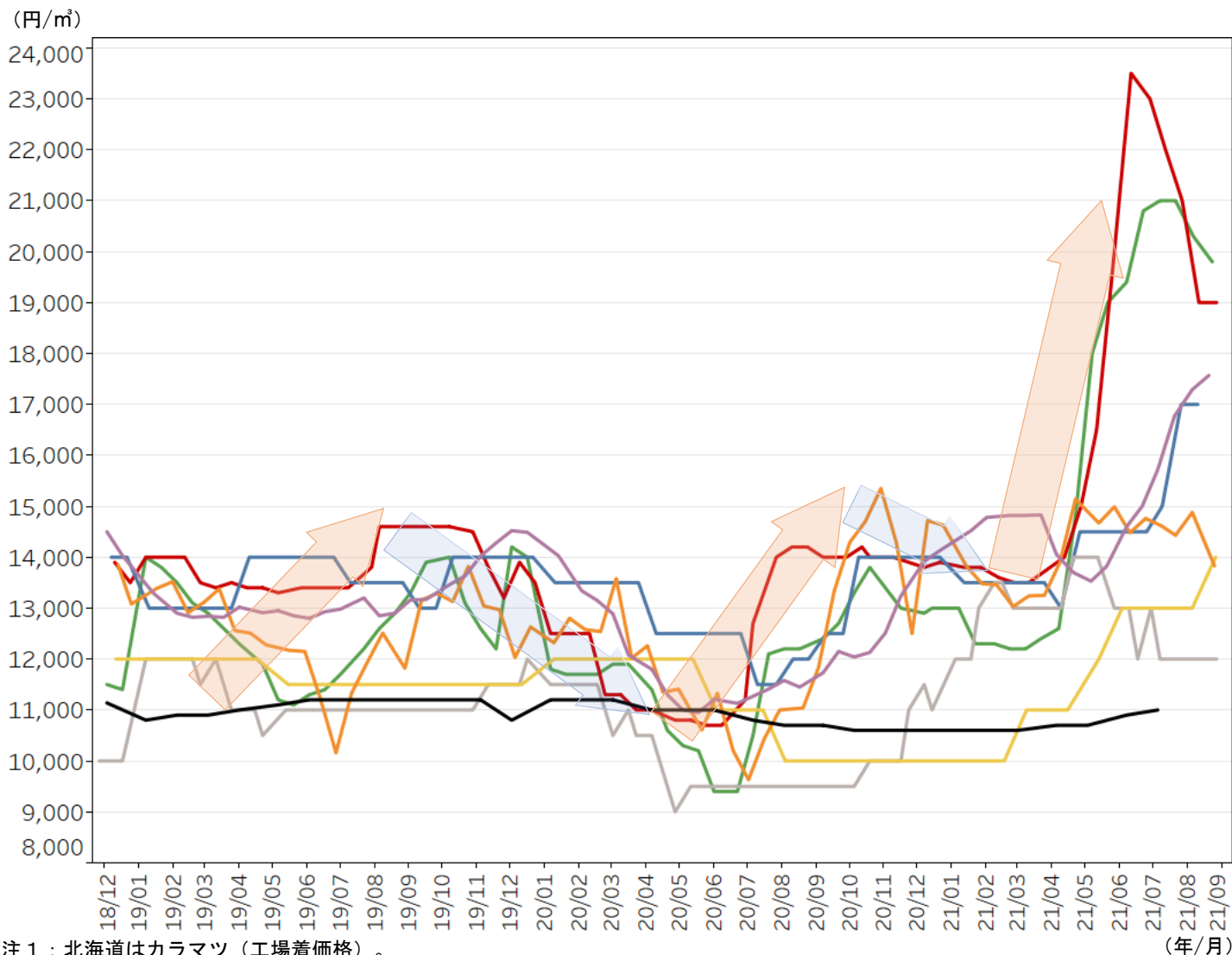
(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

ア スギ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・2021年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く見られる。九州地域では価格が高騰したが、直近では下落傾向も見られる。
- ・直近のスギ原木価格は、前年同期比25%から62%増となっている。

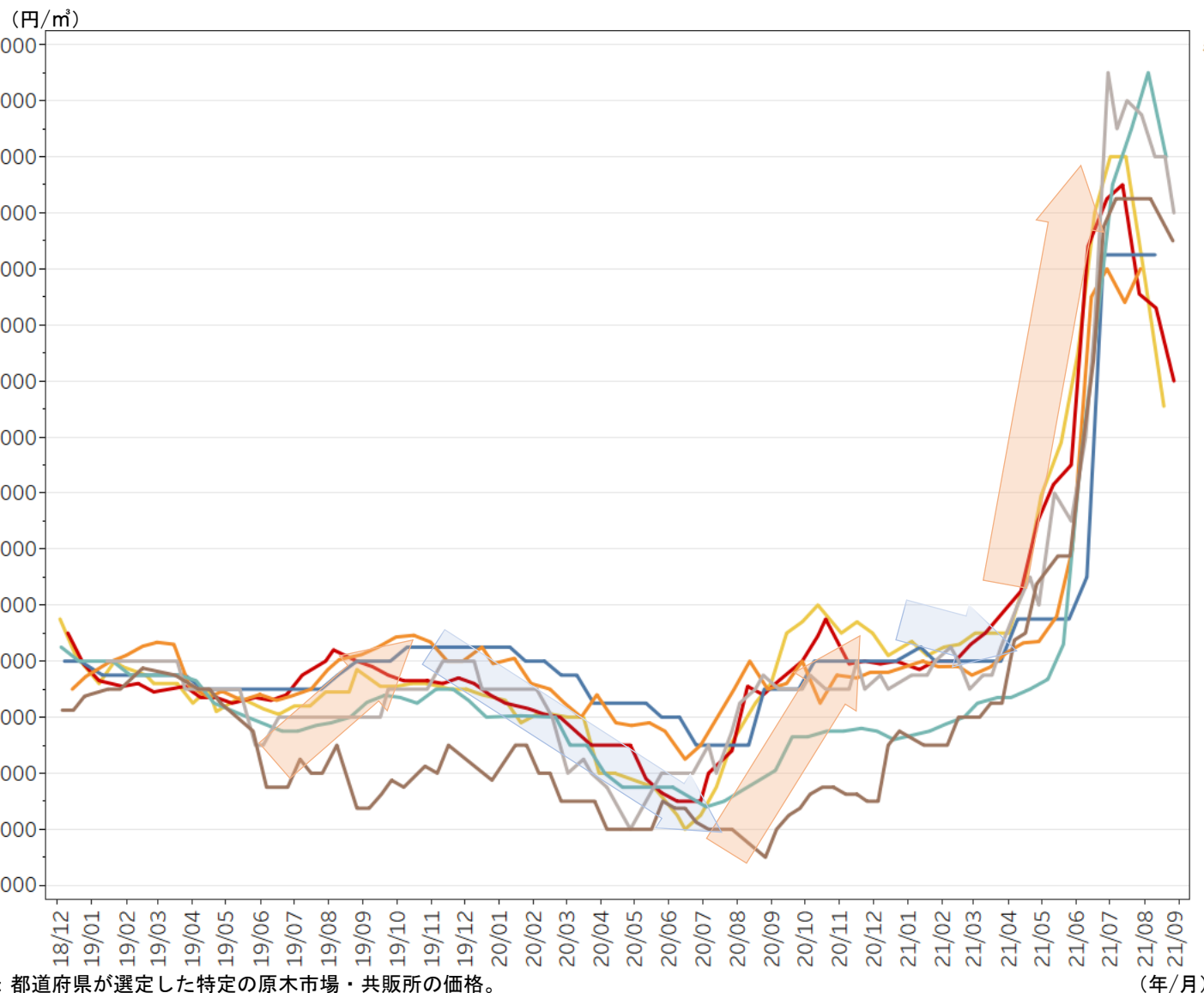


都道府県	2021年 直近※	前年 同期	前年 同期比
■ 北海道	11,000	10,800	2%
■ 秋田県	17,570	11,450	53%
■ 栃木県	13,830	11,040	25%
■ 長野県	14,000	10,000	40%
■ 岡山県	12,000	9,500	26%
■ 高知県	17,000	12,000	42%
■ 熊本県	19,000	14,200	34%
■ 宮崎県	19,800	12,200	62%

※秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県
及び宮崎県については8月、北海道については7月の
値を使用。

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、2020年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、2021年に入ってから、例年であれば原木価格が下落する時期にもかかわらず、全ての地域で大きく上昇したが、直近では下落も見られる。
- ・ 直近のヒノキ原木価格は、前年同期比58%から200%増となっている。



都道府県	2021年直近※	前年同期	前年同期比
兵庫県	33,000	11,000	200%
岡山県	34,000	17,500	94%
広島県	36,000	14,100	155%
愛媛県	32,000	15,000	113%
高知県	32,500	15,000	117%
熊本県	28,000	16,800	67%
大分県	27,000	17,200	58%

※兵庫県、岡山県、広島県、高知県、熊本県及び大分県については8月、愛媛県については7月の値を使用。

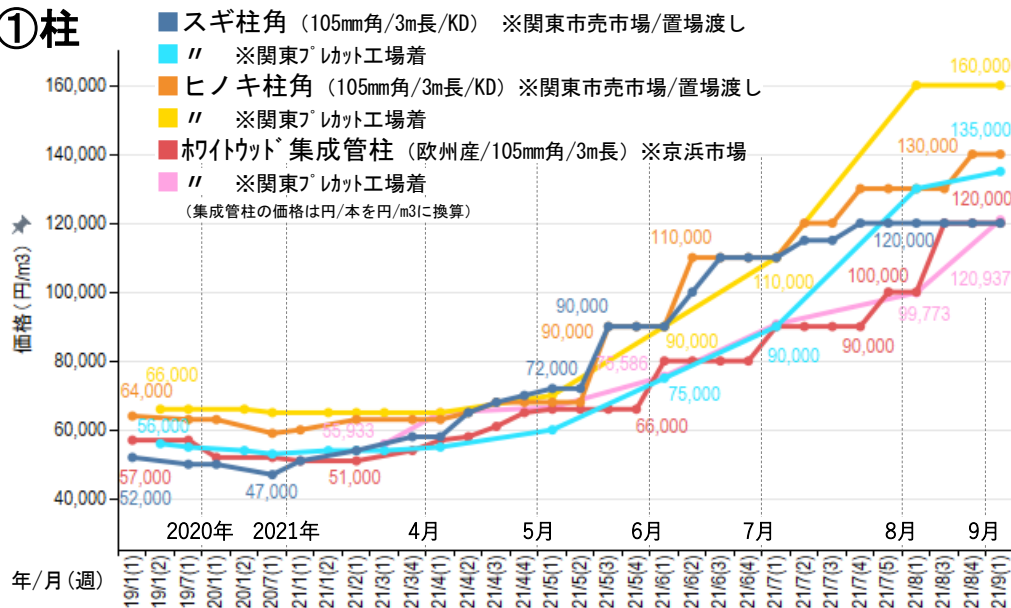
注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

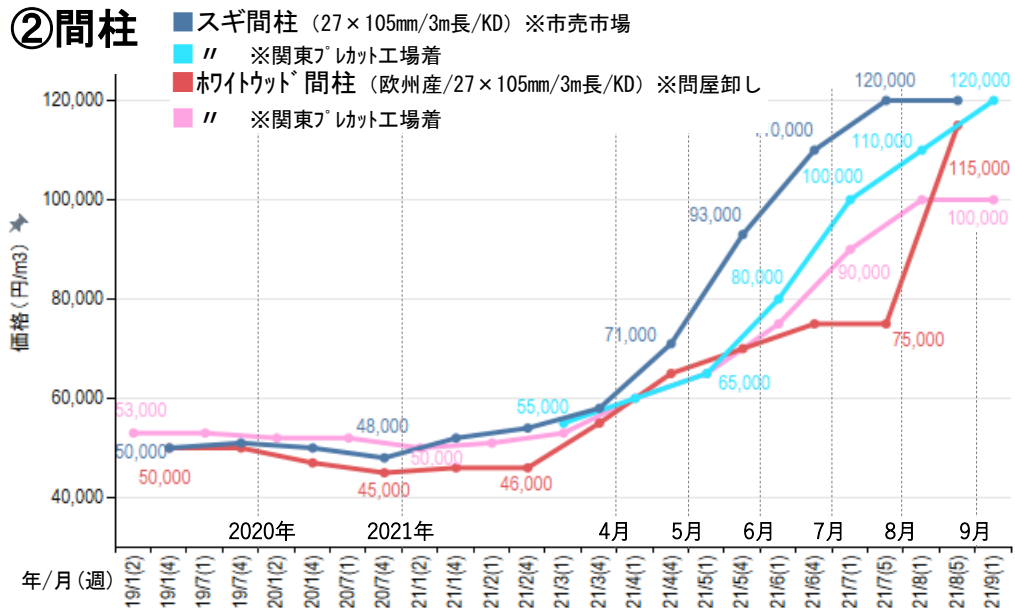
(2) 製品価格

- ・ 輸入材製品価格は、北米、中国、欧州など世界的な木材不足に加え、コンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- ・ 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇が続いている。

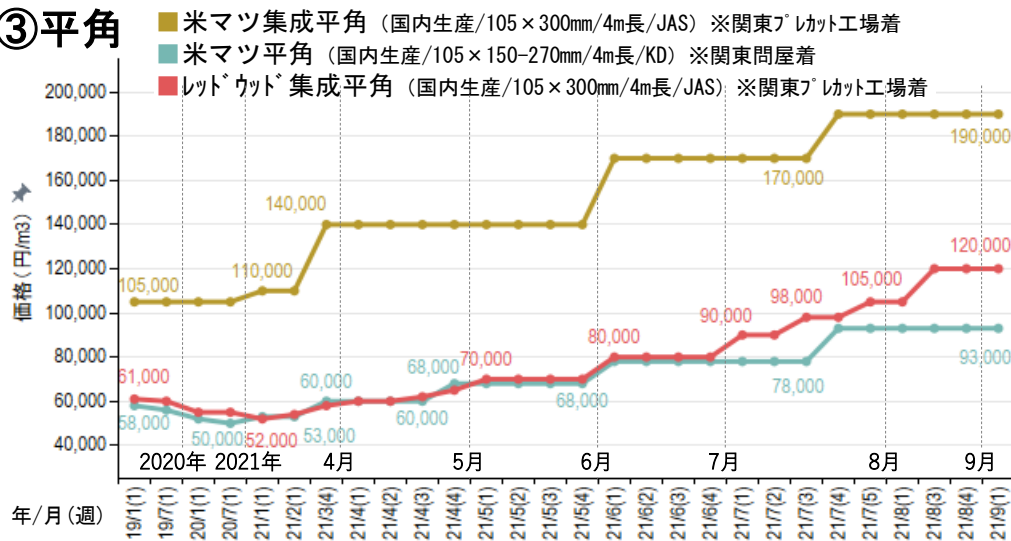
①柱



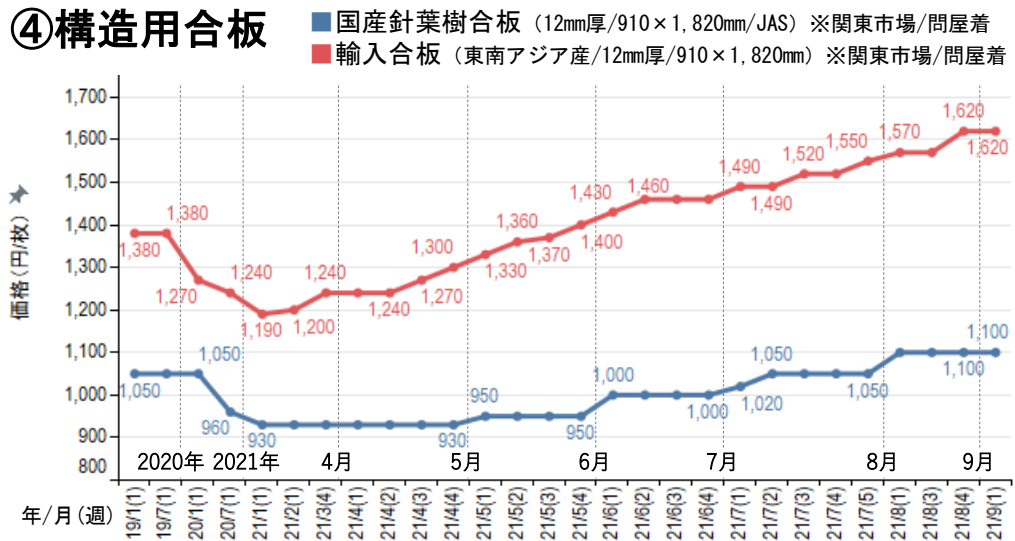
②間柱



③平角



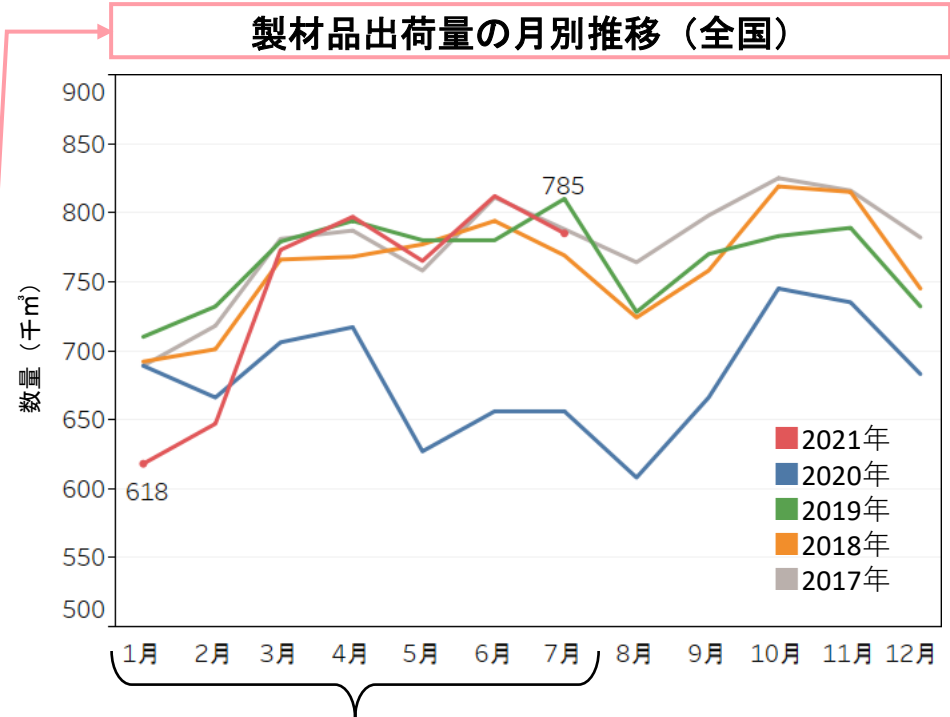
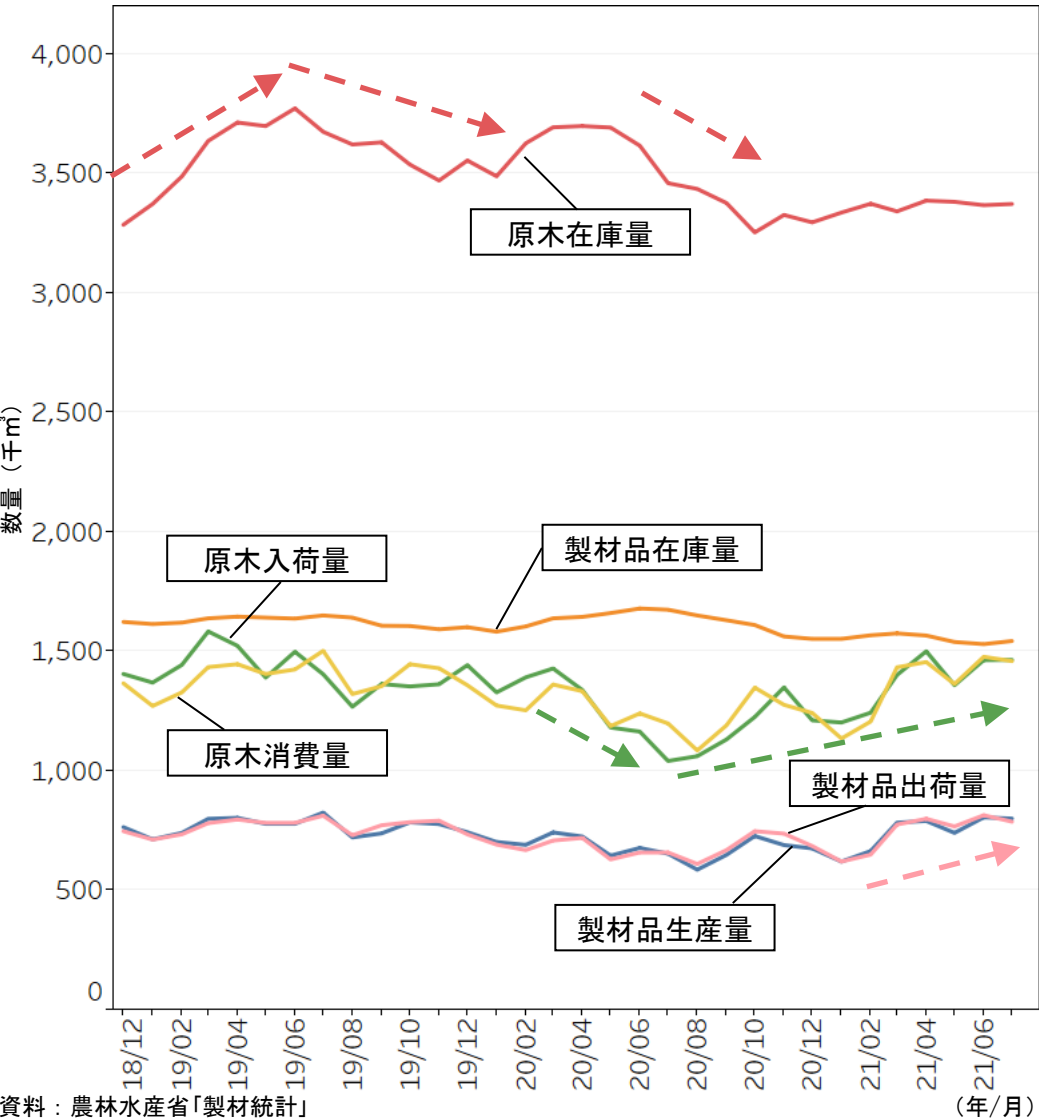
④構造用合板



2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- ・ 製材品の生産量及び出荷量は、2021年1月から増加傾向。コロナ感染拡大前の水準となっている。
- ・ 原木の入荷量及び消費量においても、2021年1月から増加傾向。

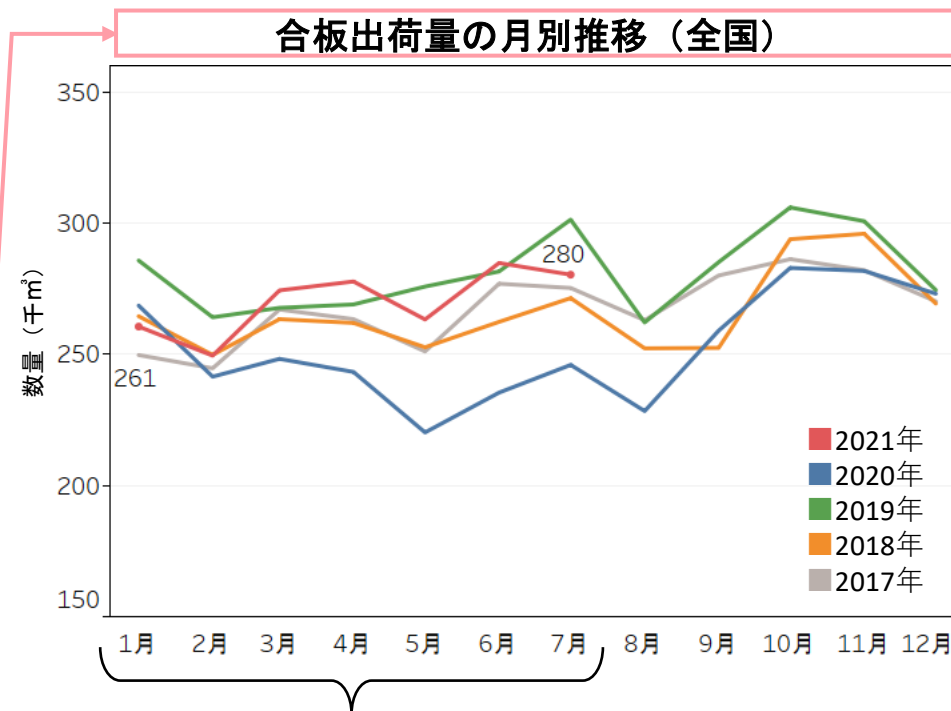
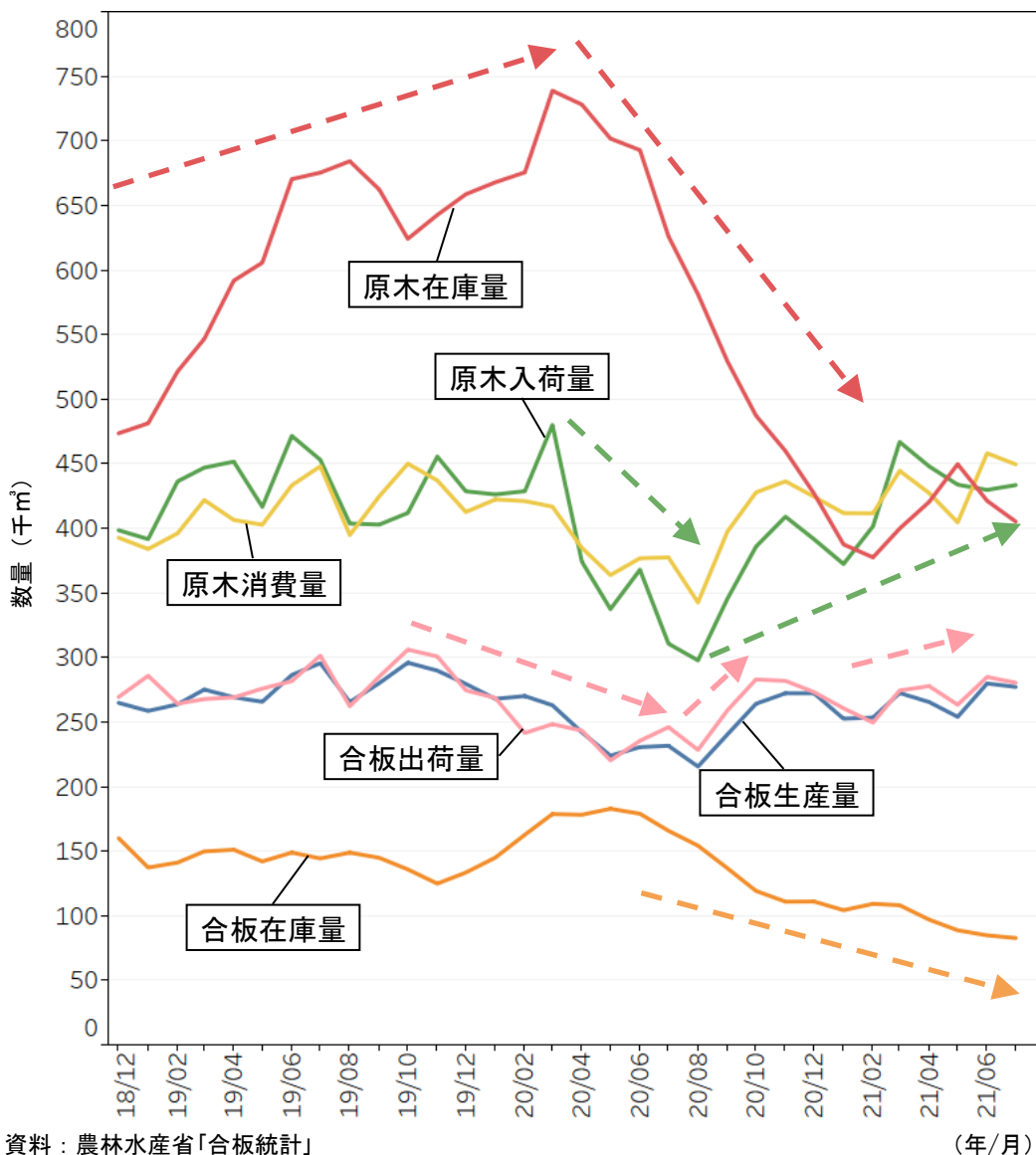


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～7月出荷量 伸び率	14%	11%	14%	-5%	27%
1～7月出荷量 合計(千m³)	5,332	5,267	5,385	4,717	5,197

資料：農林水産省「製材統計」

(2) 合板 (全国)

- 合板の生産量及び出荷量は、2021年2月から増加傾向。コロナ感染拡大前の水準となっている。一方、在庫量は2020年6月以降減少傾向で推移。
- 原木の入荷量・消費量は、2020年9月以降、上昇傾向にある。

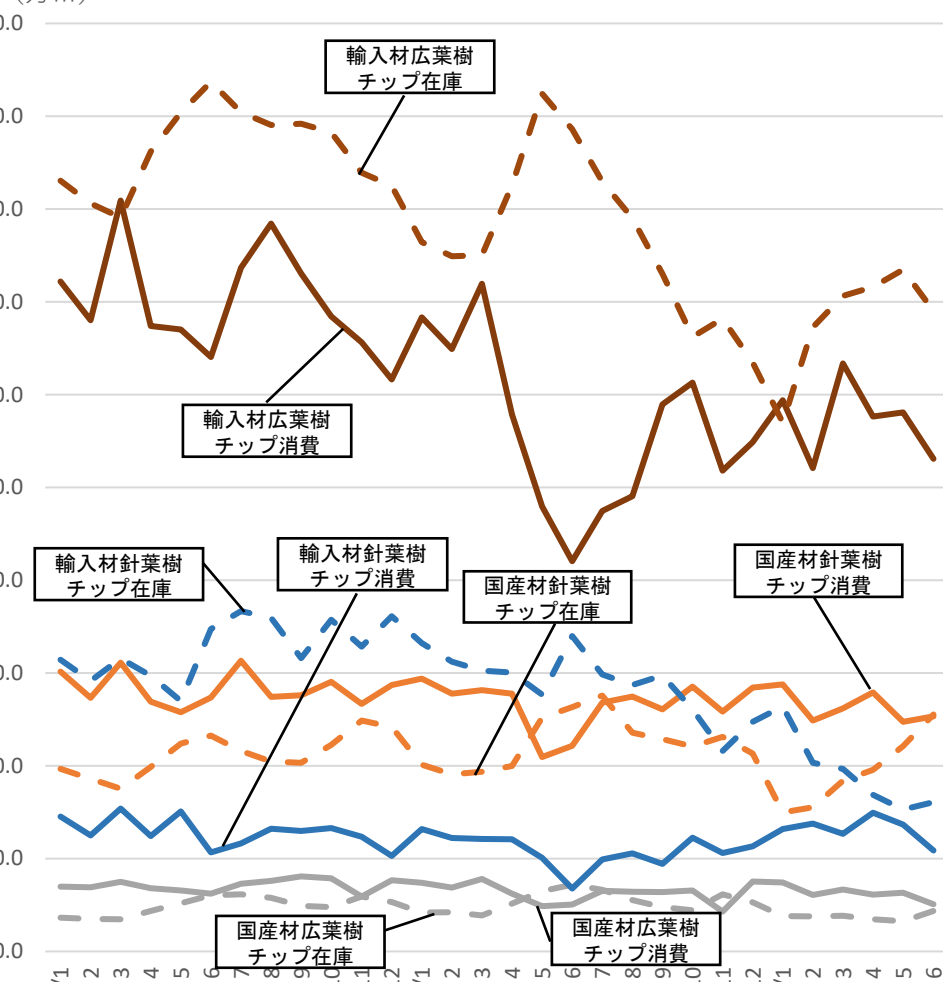


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～7月出荷量 伸び率	10%	3%	5%	-8%	8%
1～7月出荷量 合計(千m3)	1,828	1,826	1,945	1,703	1,890

(3) チップ（全国）

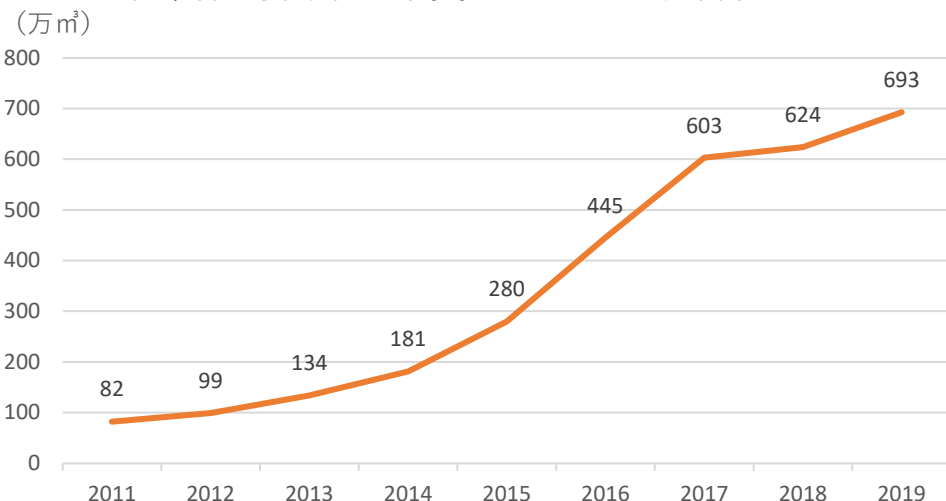
- ・パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- ・木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。

(万m³) パルプ用チップの消費量・在庫量



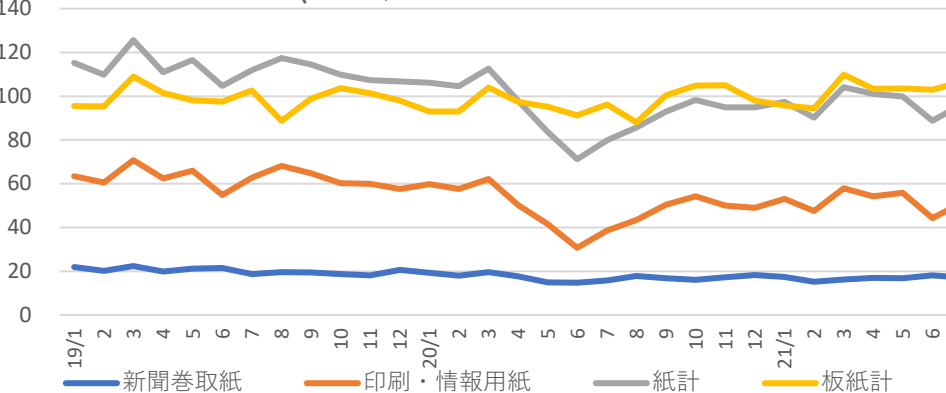
資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報
紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

間伐材等由来の木質バイオマス燃料利用量



出典：木材利用課調べ（～平成26年）、林野庁「木材需給表」（平成27年～）

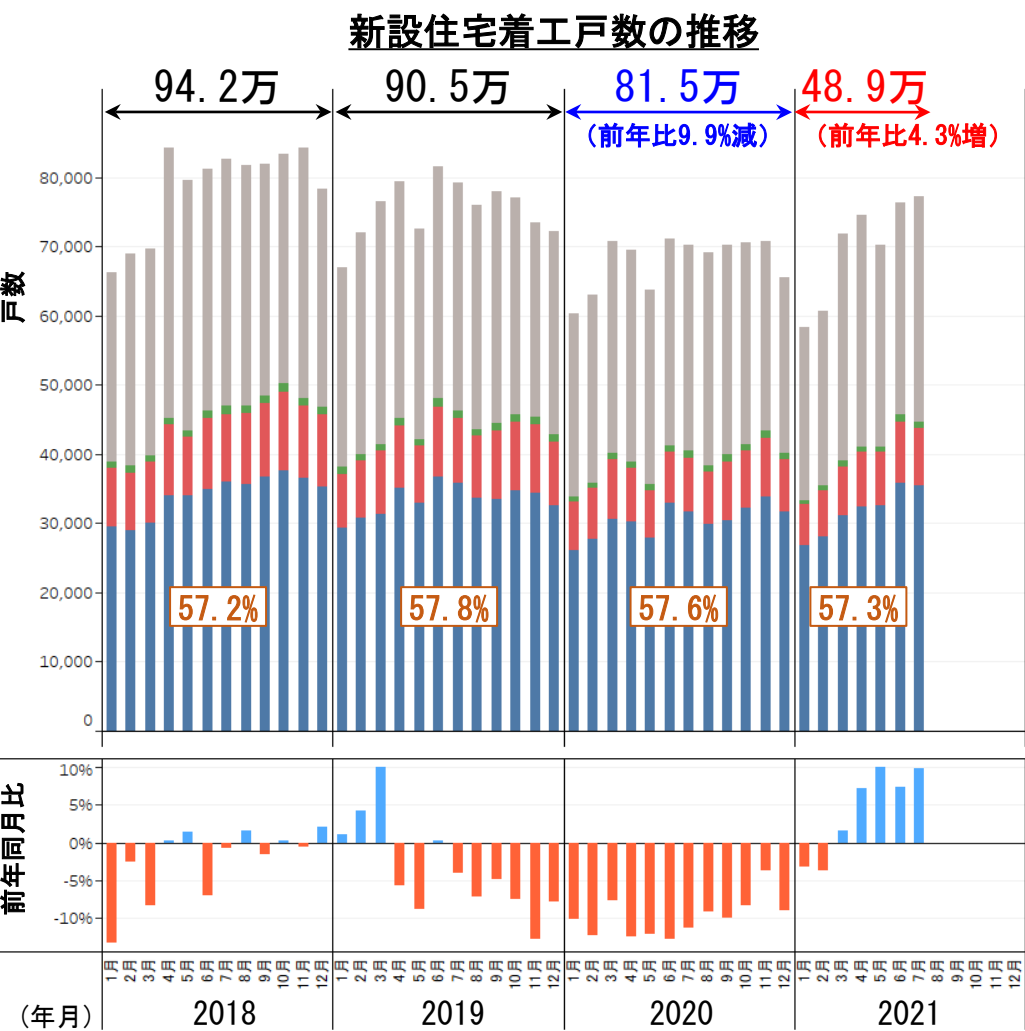
(参考) 紙品種別生産高



資料：経済産業省「経済産業省生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編」

3 住宅着工戸数の動向：全国（2018年1月～2021年7月）

- 2020年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）、このうち木造住宅は46.9万戸（同10.3%減）。
- 2021年1～7月の新設住宅着工戸数は、48.9万戸（前年比4.3%増）、このうち木造住宅は28.0万戸（同5.5%増）。
- 2020年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※2009年の新設住宅着工戸数は前年比28%減となった。）



構造別の着工戸数	2021年 1～7月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	489,192	468,927	4.3%	528,354	-7.4%
■ 非木造	208,715	202,964	2.8%	226,993	-8.1%
木造	280,477	265,963	5.5%	301,361	-6.9%
■ 木造プレハブ	5,567	6,075	-8.4%	7,012	-20.6%
■ 2×4	52,430	52,576	-0.3%	61,889	-15.3%
■ 在来軸組	222,480	207,312	7.3%	232,460	-4.3%
□ 木造率	57.3%	56.7%		57.0%	

（参考）利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

